

道路通信 7

発行 道路を考える会 原田 さちこ

道路を考える会は、札幌市の都市計画道路3・2・10 環状通（南19条西7丁目～西15・16丁目）の整備計画について、従来の車優先で車道ばかりの広い道路から、歩行者や自転車などが、快適に利用できる歩道の広い道路に、整備計画を少しだけ変えてほしいと、札幌市へお願いしている市民活動団体です。

沿道の皆様、地域の皆様、札幌市の皆様、いつもお世話になっております。

3・2・10 環状通の整備計画について、ですが、

「札幌市の都市交通 データブック 2012 札幌市」という本があります。

この本の9ページには、

② 都市計画道路一覧

(平成25年2月28日現在)

名 称			位 置		車線数	幅員(m)	延長(約m)	計画決定年月日(最終)	告示番号
区分	規模	番号	路線名	起 点	終 点				
1	3	1	札幌自動車道	北5条・手稲通	道央自動車道	4	24	13,600	H14. 6. 11 北海道第1006号
3	2	10	環 状 通	西5丁目・樽川通	創成川通	6	36	22,650	H24. 8. 14 札幌市第1929-13号
3	3	11	石 山 通	環状通	篠舞西循環通		25	19,400	H 3. 3. 28 北海道第451号

という、記述があります。

環状通は、車線数6で、幅員（道路の幅）は、36mと、なっています。

ここ、南19条西7～15・16丁目は、拡張された状態で、27mです。

札幌市の都市交通データブックの記述とは違います。

幅員27mに、幅員36mと同じ6車線が整備されることに無理がありますが、この札幌市の都市交通データブックを見る限り、27mの復員に6車線を押し付けた整備が行われていることは、全くわかりません。

札幌市の説明会は、平成24年5月11日に、柏中学校の体育館で行われました。計画は進んでいます。

札幌市は、ほんとうに必要な説明をしているのでしょうか。

ここを6車線にする理由について、

札幌市は、第4回パーソントリップ調査（平成18年実施）から、平成42年の自動車交通量を推計しています。

南19条西7～10丁目について、言えば、

現状（説明会H24.5.11）の自動車交通量は、18,000台/日

平成42年の自動車交通量（推計）は、35,600台/日と推計されています。ほぼ2倍です。

同じ第4回パーソントリップ調査に基づいて、推計された平成42年度の全体の自動車交通量は、平成18年を100と見た時、平成42年は、98と減少しています。全体として見ると減少している中で、南19条西7～10丁目は、ほぼ2倍になると推計されています。この推計を理由に、6車線の整備が必要であると札幌市は、言っています。

道路を考える会 代表 原田 さちこ

資料（札幌市交通計画課から、頂きました）

① 実際の交通量調査の値

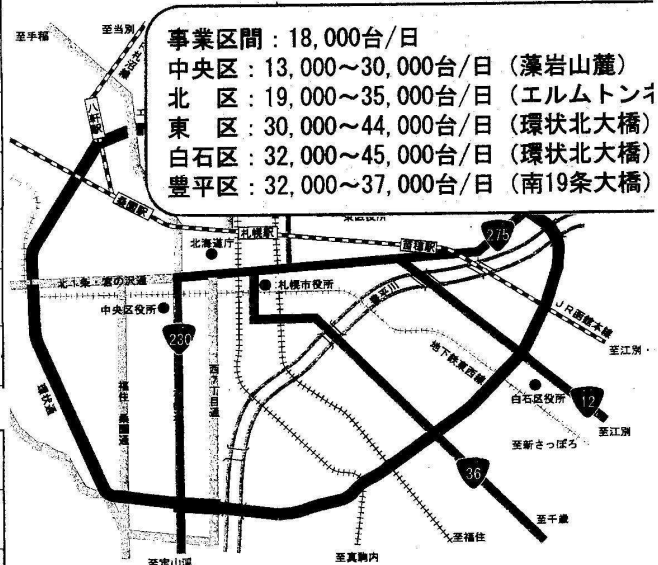
南19条西7丁目と南19条西11丁目

地 点	92583		
都計道名	環状通		
道 路 名	札幌環状線		
観測地点	中央区南19条西7丁目		
	交通量	混雑度	備 考
平成15	16687	0.75	
平成23	15142	0.82	土木部道路課(街路)計画2

地 点	4023		
都計道名	環状通		
道 路 名	札幌環状線		
観測地点	札幌市中央区南19条西11丁目		
	交通量	混雑度	備 考
平成17	12924	0.39	H17休日(10767)

- ② 平成24年5月11日に柏中体育館で行われた地域住民への説明会時に、札幌市道路課の手元資料として使われた現況交通量の資料

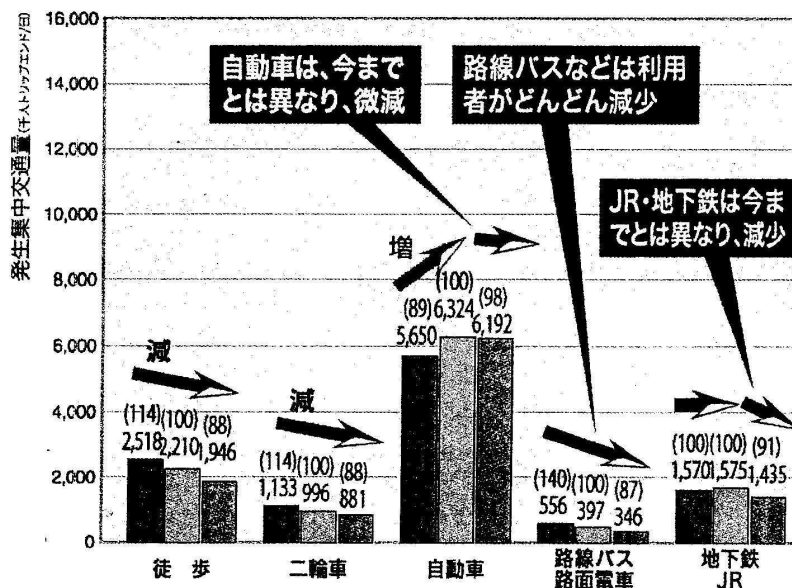
現況交通量（交通量調査の結果）



- ③ 札幌市が6車線の道路が必要であるということの理由として平成42年の交通量を挙げています。平成18年度に行われた第4回パーソントリップ調査に基づいて推計された交通量です。

- ④ ③と同じ第4回パーソントリップ調査に基づいた自動車交通量のグラフがあります。

平成18年を100と見たとき、平成42年は98と、減少しています



■ 過去(1994年・H6 第3回調査) ■ 現況(2006年・H18 第4回調査) ■ 将来(2030年・H42 将来予測)※

自動車交通量は全体としては、平成18年→平成42年で、100→98 と減少すると推計されている中で、南19条西7～10丁目については、ほぼ2倍になると推計されています。

札幌市道路課の説明は、札幌市は、ここ環状通（南19条）へ、車の流れを誘導する、ここに多くの交通量を誘導する計画です。とのことでした。

整備計画では、4車線を6車線とする計画ですから、車線数は1.5倍となります。そこに、推計の交通量ですから、現状の2倍の交通量を集めるとというのが札幌市の考えです。それが、本当ならば、車線数1.5倍にし、2倍の交通量ですから道路の混雑は現状よりひどくなります。（現状では、朝夕に少し混む程度）

これが、札幌市の交通計画です。これが、札幌市の考えです。この地域は、札幌市の多くの自動車交通量を負担し、今の道路状況より、渋滞の度合いは、1.33倍の混み具合になります。（1.5倍に広げたところに、2倍の交通量ですから）

札幌市は、今の道路状況より、より渋滞となる状況にするという計画をもって、ここの道路の拡幅事業を考えているということです。

説明会では、札幌市がこの将来に対して描いている道路の状況についてご説明は、ありませんでしたが、いただいた資料から、描ける平成42年の道路状況は、以上に記述した状況になります。それは、札幌市の都市計画の意向と言うことです。

札幌市の考えということです。

この地域への負担は、おそらく住民の方たちが、今思っている状況をはるかに超えるものとする、というのが札幌市のお考えになります。

説明会時には、渋滞の緩和ということも、札幌市さんはおっしゃっていらしたように覚えています。が、札幌市の考えているここの道路状況は現状をはるかに超える渋滞の道路です。いただいた資料からわかります。

札幌市の説明責任について、どうお考えになりますか。

この地域が、これほどの自動車交通量を負担するという、交通計画を札幌市が考えていたということ、ご存知でしたか。

現状の札幌市の整備計画の道路の形は、全くの車優先であり、歩行者や沿道の住環境には配慮のない道路の形です。この整備が実際行われることについて、どうお考えになりますか。

道路を考える会 代表 原田 さちこ

幌南小、柏中、藻岩高校、札予備（一浪）、北海道大学水産学部卒業（昭和62年）主婦